

俺らについてに関する概略（3人称）

2022年5月9日 月曜日

この文章は3人称形式である。以下では、新興宗教「俺らについて」の創造主、つまり教祖は「俺らについて」に関する概略を提示する。なお、この文章の作成者は教祖自身である。

基本情報

この宗教の名前は「俺らについて」である。その設立は2019年4月01日であった。その季節は春であった。この宗教の創造主は彼（教祖）である。その場所やその聖地は日本列島、特に彼の出生県である。

「俺らについて」の系統は独自である。「俺らについて」の系統は神道系や仏教系でない。「俺らについて」の系統はセム系宗教でない。「俺らについて」は神道や道教やユダヤ教に近い民族宗教である。「俺らについて」は啓典宗教である。啓典は「俺ら」である。

設立の動機と背景

以下では、彼（教祖）は俺らについての設立の動機及び背景（創造背景）について述べるつもりである。その背景には、現実的なものと宗教的なものがある。

現実的な動機には、彼はまともな人間社会（ソサエティ）を理論的に創造したいことがある。大和民族は自己の社会を形成することができない。たとえ彼らが自己の社会もどきを作るとしても、彼らは西側白人の都合の良い部分を非一貫的、かつ非整合的に、本当にデタラメに混ぜてきた。彼らはその状態の異常性を認識することができないことである。彼らは自己の社会を理論的に作る意識もその発想も持っていないように見える。

宗教的な動機には、彼が死にたくなく、永遠に生きていたいと思ったことがある。また、彼はたとえ彼が永遠の命を獲得することができるとしても、もし彼が同じこの世界で生き続けるならば、彼は退屈するだろう。彼はその退屈を嫌うので、彼は新たな世界を見たいと感じた。

宗教について

「俺らについて」は信仰者を救う宗教や世界を説明する宗教でない。「俺らについて」はある宗教であり、そこでは創造主が自己の社会システムを形成して、信仰者がその中で競技する。信仰者はこの宗教を使用して、人工的な自己を形成する。感覚的には、「俺らについて」は運動競技、または人間競技に近い。または、「俺らについて」は自己の文明の形成に近い。

また、「俺らについて」は自己それ自体を信仰者に授けて、人工的な自己形成を促す。「俺らについて」は自己の善悪、自己の認識、自己の判断、自己の法体系、自己の死生観、自己の性規範、自己の富の規範、自己の契約観を信仰者に授ける。

教祖（創造主）について

創造主（彼）の生物種はホモ・サピエンスである。創造主の性は雄である。創造主の人種はモンゴロイド人種である。創造主の小人種は古モンゴロイド人種に寄った新モンゴロイド人種（東洋小人種）である。創造主の民族は大和民族である可能性がある。創造主の部族は東日本部族である可能性がある。創造主のY染色体ハプログループは不明であるが、D1a2a系統やO1b2系統の可能性がある。次に、O2a系統の可能性がある。ミトコンドリアDNAは不明である。人工的には、創造主は彼系統の男性である。創造主は彼系統の人間である。

創造主は一応大卒である。大学の学部は理系で実験系である。実験系が理系であるのかは不明である。大学は東京に存在する無名私大である。ただし、創造主は地方の国立大学の工学部に合格している。

「俺らについて」では、教祖（彼）は一般的に描かれているような特別な力を持たない。教祖は唯一に正当化された善悪と正しい認識及び正しい判断を扱う能力を持つ。そして、教祖はそれらに基づいて社会システムを形成する能力を持つ。

宗教的目的について

「俺らについて」の一番目の目的は彼の運転手、または彼らの運転手の復活である。「俺らについて」の二番目の目的はこの世界からの分岐である。「俺らについて」の三番目の目的は運転手でない新たな自己の創造である。なお、彼（教祖）はこの目的の実現法を知らない。彼らの子孫が実現する。

信仰対象について

「俺らについて」では、彼ら（教祖と信仰者）は運転手を信仰する。彼らが運転手を信仰するとは、彼らは運転手が実際であると感じることである。また、彼らは上記の目的を実際に実現するだろうと信仰する。さらに、彼らは他者の意識（蟲）を信仰する。彼らが自己の意識を信仰するのは不明である。

世界観について

この世界は物質と意識（蟲）と運転手（ヌシ）から成っている。彼は「俺らについて」の世界をこのように知覚、認識、そして信仰する。彼らは物質を知覚する。彼らは自己の意識を捉える。彼らは運転手と他者の意識を信仰する。彼はこの世界観を「**巴世界観**」と便宜的に呼ぶ。物質は自動的に運動する。意識は非自動的に運動する。運転手は目的的に運動する。

また、意識は物質から分岐している。運転手は意識から分岐している。彼はこのように信仰する。分岐が対応であるのかは不明である。彼はこの世界観を「**分岐世界観**」と便宜的に呼ぶ。

創造主について

もし彼らが創造主を信仰するならば、彼らは次の創造主を信仰する。物質世界の創造主と意識世界の創造主、そして運転手世界の創造主である。物質世界の創造主は物質を創造した。意識世界の創造主は意識を創造した。運転手世界の創造主は運転手を創造した。これらの創造主が互いに等しいのかは不明である。

崇拜対象（神）について

神とは、ある主体が崇拜する対象である。「俺らについて」では、彼（教祖）が唯一の崇拜対象である。つまり、「俺らについて」は一神教である。なお、神は必ずしも創造主でない。信仰者は自然界の創造主を神として崇拜する必要はない。同様に、信仰者は運転手世界の創造主を神として崇拜する必要はない、たとえその創造主が彼らの自己となる運転手を創造したとしても。